



↑野木中、野木二中の生徒みんなの平和への思いを託した千羽鶴を「原爆の子の像」へ捧げました。



## 平成30年度 小山・野木・結城合同広島平和記念式典中学生派遣団報告記

# 平和への願い

野木町では、平和活動のリーダーを育成することを目的に、平成26年度から小山市と合同で中学生の代表を広島平和記念式典に派遣しています。28年度より結城市も加わり、今年度も2市1町で参加しました。

8月5日(日)～7日(火)の日程で派遣し、6日(月)には広島市で開催された平和記念式典に、小山市と結城市の中学2年生と共に、野木中学校2年生2名、野木第二中学校2年生2名の計4名が参列しました。中学生の代表として、また、町民の代表として立派にその務めを果たしてきました。

派遣を通じて「平和」について学んだこと、現地で体験したり感じたりしたことなど、中学生4名の感想を紹介します。

野木中学校 落合 華菜



8月6日、私達は平和記念式典に参列しました。外国の方もたくさん参列されていて、平和を願っているのは日本だけじゃないのだなと思いました。そして、午前8時15分。平和の鐘が鳴り響く中、1分間の黙祷を捧げました。この短い時間にたくさんの人の命や日常、夢や希望が一瞬で失われたと思うと改めて、原爆の威力、恐ろしさ、命の尊さを強く感じました。また、

こども代表の平和への誓いでは「平和をつくることは、難しいことではありません。私たちは、無力ではないのです。」という言葉が強く胸に残りました。そして、世界中の人に訴えかけるようなこども代表の人の姿に胸打たれました。

今回の研修を通して、普段当たり前のように過ごしている日々は、とても幸せなことなのだと思われました。そして、いま幸せか聞かれた時、世界中の人が胸を張って「幸せだ」と答えられるような世の中にするため、沢山の人が平和の大切さを訴えかけたいです。

野木中学校 柿沼 廉崇



私は、広島市での現地研修、事前事後研修会、七月末に小山市で行われた平和展を通して、戦争の悲惨さ、平和の尊さについて深く考えることができました。

広島での現地研修では、平和記念式典に参列させていただき、8時15分の黙とうでは、参列した人々の心が世界最初の被爆地ヒロシマで一つになったことを私は感じました。

→灯籠に平和への願いを込めて流しました。



→8月6日の朝、原爆が投下されました。本川の土手で片付け作業に参加していた広島第二中学校の生徒全員が被爆しました。原爆の恐ろしさと平和の大切さを痛感しました。



→骨組みだけになった建物、崩れ落ちていく瓦礫の数々、今にも崩れてしまいそうな壁など、原爆が投下されたときのまま、時間が止まっているようでした。



また、次の日には被爆体験講話がありました。講師の植田のり子さんが私たちに語っている時の必死さは、当時の様子が目に浮かぶぐらいでした。今でもしっかりと覚えていきます。

これからは、ヒロシマで学んだことや感じたことを伝えていくことが私の大切な役目だと思います。この役目をしっかりと果たせるようにしたいです。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

野木第二中学校 神原 湧斗



私は、戦争や広島原爆について、教科書では決して学ぶことのできない多くのことを学び、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さや命の尊さ、平和な毎日がどれだけ幸せで大切かを改めて実感しました。

間近に見る原爆ドームは、73年前から時が止まっているように見え、一言では何とも言いぬ

圧倒的な存在感を放ち、原子爆弾の凄まじい威力と恐ろしさを感じました。また、資料館で見た写真や資料は、どれも原子爆弾の恐ろしさや戦争の悲惨さを私たちに訴えかけているようでした。

平和記念式典では、こども代表による平和への誓いが心に強く響きました。「平和とは、自然に笑顔になれること」「平和とは、人も自分も幸せであること」「平和とは、夢や希望をもてる未来があること」この言葉を深く心に刻んで、これからの日々を過ごしていきたいと思います。

戦争や原爆の記憶を風化させないよう、広島現地で学んだこと感じたことを、1人でも多くの人に伝えていきたいと思えます。

野木第二中学校 吉田 哉子



私は広島平和記念式典中学生派遣事業に参加し、いろいろなことを学びました。

実際に現地に行き、73年前の

ままたが止まったかのように街に佇む原爆ドームや原爆の被害を物語る資料が並ぶ資料館の見学、平和記念式典の参加など、とても貴重な経験を与えていただきました。

原爆では、野木町の人口の六倍である約14万人の方が亡くなりました。高熱、熱線、爆風、放射線など大変な被害を受け、痛みと闘いながら亡くなっていたのだと思います。このような事実を知り、改めて戦争は絶対に起こしてはいけないことだと自覚しました。

今、私たちが笑顔で生きていられるのは当たり前なことではないと広島派遣を通して気づくことができました。今回の経験は、一生忘れない思い出の一ページになりました。本当に貴重な三日間をありがとうございました。

※11月18日(日)の学校教育祭で中学生の広島派遣報告発表があります。ぜひ、足をお運びください。

問こども教育課☎(57)4182